

「子ども宇宙アカデミー」の挑戦

～親子で学ぶ！小学生からの本格宇宙講座で目指していること～

伊藤 智子 (子ども宇宙アカデミー) URL <https://cosmic-academy.com>



親子で学び親しむ「宇宙」



始まりは、「子育て支援」の視点から…

長年、子育て・教育のあり方を模索していたところ、「天文教育家」と出会いから、2013年に活動スタート！その特徴は、次の通り。

- **毎月1回、1年を通して、体系的に宇宙を学ぶ**
- **小学生以上の親子を対象とする**
- **講師は、宇宙の専門家**
- 毎回、テーマに沿った**アクティビティ**を実施
- 宇宙研究開発経験者から**体験談聴講の機会設定**

「子ども宇宙アカデミー」の活動を通して、目指しているものは何か、その意義や可能性を紹介する。

1. 「みて、きいて、考え、伝える」力を育む

「みて、きく」幅を広げることは、「考える」力、「問題解決」力となり、自らの考えを「伝える」力は、社会の中でのコミュニケーション力となる。「宇宙」は、これらの力を育む題材として、最適ではないだろうか。

●みる：「見る・視る・観る」

幅広い視野、多様な視点・角度から、様々な方法で、「みる」ことを促す「宇宙」

●きく：「聞く・聴く・訊く」

耳で聞いて分かるとともに、専門家である講師の体験や探求心・情熱が心に響く。口にして「訊く」ことを促す。それに応えてもらうことは、「学ぶ喜び」・さらなる「探求心」に！

●考える： 「みて」「きいた」ことを元に、自分なりに「考える」工夫を随所に盛り込む。最も力を入れている。

●伝える： 自分の「考え」を、「間違いを恐れず」「周りの目を気にせず」表明できるよう促す。意見に耳を傾ける。
→ 自己肯定感・コミュニケーション力に！

2. アクティビティや計算を、「やってみる」



「ベーシック・コース」では、宇宙の基礎知識のお話と「アクティビティ」を実施。実体験・**手を使うこと**を重視している。

「アドバンス・コース」では、天文学的な数を使って「**計算**」に取り組む。算数が得意になったとの声も。

3. プロに、親子で学ぶことの意義



講座の様子

講師は、**呉市かまがり天体観測館 山根弘也 館長**。

小学生でも分かるよう、また自分で「考える」よう工夫を凝らしていただき好評を博している。

ネットなどで「知識」を得る機会が増えた子どもたちに対し、宇宙に詳しくない**保護者**は対応に苦慮している現実がある。納得の対応をしてくれる**専門家**や自らも宇宙を探求している大人と身近に接する機会は、「**学ぶ喜び**」を増幅。子どもの成長をサポートしたいという**保護者のニーズ**に応えることにもなり、**親子で共にワクワク学ぶこと**で、**よりよい親子関係づくり**や**家庭での体験活動**の展開につながっている。

4. 幼少期に「宇宙を学ぶこと」の可能性



STEM教育・宇宙産業に関する**人材育成**の可能性はもちろん、「みてきいて考え伝える力」は様々な分野での、子どもたちの「**より幸せな未来を創る力**」となり、

山積する**課題解決**にも**取り組む**力になると考えている。